

登山の実施結果について(令和6年9月5日～同年10月16日実施分)

【山岳部】

番号	学校名	行事名	実施山域	実施日	日数	参加生徒数	引率者	ルート及び通過時間	登山アドバイザー帯同			天候(上段) 積雪量(下段)	特に配慮した点の特記事項	ヒヤリハット事例			
									人数	資格	要件			具体的内容	背景要因	改善策	委員からの助言
1	宇都宮高等学校	令和6年度 男体山登山	男体山 (日光市)	令和6年 9月14日	1日 (日帰り)	11名	3名 湯澤真一 鶴見勝司 富永孝昭	学校(6:25)・・・鶴田駅(6:36) ・・・日光駅(7:18)・・・二荒山神社中宮祠(9:00)・・・三合目(9:30)・・・四合目(10:05)・・・八合目(11:30)・・・山頂(12:20)・・・六合目(14:10)・・・三合目(14:43)・・・中宮祠(15:20)・・・日光駅(16:40)・・・鶴田駅(17:55)・・・学校(18:05)	1名	日本スポーツ協会公認 山岳コーチ1	第1号	曇り時々 晴れ 0cm	・各自体調を管理するとともに仲間の体調の変化にも気を配り、何かあれば速やかに引率者に報告することを確認した。 ・熱中症対策として、着衣の調整や水分・塩分・糖分補給に注意させた。 ・山頂での休憩中は風があると汗冷えにより寒くなるので、防風防寒対策にも気を付けさせた。 ・6合目から8合目の岩場通過時は、全員ヘルメットを着用させ、転滑落に注意させた。 ・浮き石に注意し落石させないよう慎重な歩行と濡れた岩の通過は足裏全体で摩擦を利かせて下る点に注意した。	特になし	特になし	特になし	問題なし
2	宇都宮高等学校	令和6年度 尾瀬ヶ原 キャンプ	尾瀬ヶ原・尾瀬沼 (群馬県片品村)	令和6年 9月21日～ 22日	1泊2日	15名	2名 湯澤真一 鶴見勝司	[9/21]学校(6:50)・・・鳩待峠(10:20)・・・山の鼻(11:00)・・・竜宮十字路(12:00)・・・見晴キャンプ場(12:45) 幕営 [9/22]見晴キャンプ場(6:55)・・・沼尻休憩所(8:20)・・・尾瀬沼東岸(9:20)・・・三平峠(10:10)・・・一ノ瀬(10:50)・・・大清水(11:32)・・・学校(15:35)	1名	日本スポーツ協会公認 山岳コーチ1	第1号	曇りのち 雨 0cm	・各自体調を管理するとともに仲間の体調の変化にも気を配り、何かあれば速やかに引率者に報告することを確認した。 ・雨天が予想されたので、雨具やザックカバーはザックの取り出しやすいところに入れておくよう指示した。 ・寝袋や着替えなど濡れては困る装備の防水対策について出発前にチェックし、不十分な者は直させた。 ・木道や敷石、落ち葉など雨に濡れると大変滑りやすくなるため、慎重に歩くことと、万が一の転倒時には、ザックをクッション代わりにして倒れることで頭部や手首を保護する姿勢を取るとよいことを確認した。	特になし	特になし	特になし	問題なし
3	宇都宮高等学校	古峰ヶ原高原 全山縦走 登山	古峰ヶ原高原 (鹿沼市)	令和6年 10月13日	1日 (日帰り)	11名	2名 湯澤真一 鶴見勝司	学校(7:00)・・・古峰ヶ原峠(8:34)・・・三枚岩(9:22)・・・方塞山(9:50)・・・ハイランドロッジ(10:30)・・・横根山(11:05)・・・象の鼻展望台(11:50)・・・井戸湿原(12:20)・・・日瓢鉦山事務所脇登山口(13:35)・・・「つつじの湯」で入浴(14:00～15:00)・・・学校(16:05)	1名	日本スポーツ協会公認 山岳コーチ1	第1号	晴れ 0cm	・気候が秋めいてきて涼しくなっており、風が吹いているときの汗や雨による体の濡れは低体温症の危険があり、防風防寒対策にも留意すること。 ・井戸湿原からの下りは前半のハイキングコースとは異なって踏み跡の少ない登山道となるため、ルートの確認や足下の岩に注意して歩くこと。 ・井戸湿原周辺の木道は前日の雨で濡れていて滑りやすいため、靴底全体の摩擦を利かせながら歩行すること。	特になし	特になし	特になし	問題なし
4	栃木女子高等学校	令和6年度 秋山登山	丸山、赤薙山 (日光市)	令和6年 9月15日	1日 (日帰り)	15名	3名 高橋秀明 池間明德 増山明美	栃女6:30＝借上バス＝キスゲ平園地8:30・・・9:40丸山山頂10:00・・・分岐10:20・・・焼石金剛手前11:10・・・小丸山展望台11:40・・・12:00キスゲ平園地12:45＝借上バス＝14:30栃女	1名	日本スポーツ協会公認 山岳コーチ2	第1号	曇り 0cm	・人数が多かったため、隊全体を把握できるよう引率教員とアドバイザーを分散させたパーティーを編成した。 ・午後から天気が崩れる予報であったため、状況によっては赤薙山の山頂手前でも引き返すことを事前に周知した。→12:00頃にレストハウスに到着するよう、赤薙山樹林帯の手前で引き返した。	特になし	特になし	特になし	問題なし
5	大田原高等学校	歩荷山行 (朝日岳)	朝日岳 (那須町)	令和6年 9月14日	1日 (日帰り)	7名	2名 高梨和幸 小磯怜士	学校発5:30＝＝峠の茶屋駐車場着6:30・行動開始6:55・・・峠の茶屋跡7:35・・・三斗小屋温泉8:45(休憩60分)出発9:45・・・隠居倉10:40(昼食40分)出発11:20・・・朝日岳12:00・・・峠の茶屋跡12:55・・・峠の茶屋13:20・解散14:00	1名	日本スポーツ協会公認 山岳コーチ1	第1号	晴れのち 曇り 0cm	・前日(13日)に、学校で幕営をし、翌日歩荷となる。13日は最高気温が30℃を超え、夕方から夕立ちがあった。雨がひどいときには、部室や部室周辺での幕営を考えていたが、テント泊ができる状況であったため予定通りテント幕営で翌日に歩荷を実施した。 ・また、14日の天気予報はおおむね曇り、2時間ほど小雨となっていた。三斗小屋温泉到着後にその後の行程を中止するかどうかを判断することになっていたが、晴れており、携行していた雷探知機も反応しなかったため、予定通りの行程で実施した。	歩荷での荷下ろしをした後、隠居倉から朝日岳に向かう途中で足をつった生徒が1名いた。症状の回復を待ち、回復後、当該生徒の荷物を部員で分担して、行動を再開した。	前日の学校での幕営において、テント内が暑く、よく寝られず、疲れがたまっていた。顧問の一人用テント内の最低気温は27℃で、生徒のテント内には複数人いることから結構温度が上昇したと思われる。(熟睡できた生徒が2名、地表暑くてよく眠れなかったという生徒が5名いた)	歩荷に向けて20kgの負荷をかけてトレーニングを行ってきたが、暑いテント泊で体力を削られたことが考えられる。気象庁によれば、夜間の最低気温は20℃近くを記録していたため、昼間の温度が30℃を超えていたため、地表熱と体温がテント内の温度を高くしたのだろう。部員は6月の高原(福島県)の低温と、今回の9月の平地の残暑を経験し、断熱効果の少ないテント泊において体温調節の大切さを改めて感じたようである。	問題なし
6	大田原高等学校	紅葉狩り(南月山・姥ヶ平)	南月山、白笹山、姥ヶ平 (那須町)	令和6年 10月6日	1日 (日帰り)	5名	2名 高梨和幸 小磯怜士	沼ッ原湿原駐車場集合5:30＝＝(それぞれ保護者の送迎)＝＝白笹山登山口出発5:45・・・白笹山7:20、ミーティング10分・・・白笹山登山口8:30・解散9:00	1名	日本スポーツ協会公認 山岳コーチ1	第1号	曇りのち 雨 0cm	・生徒7名のうち、1名が英検、1名が体調不良で欠席し、5名での山行となった。 ・この日の天気予報は秋雨前線により、終日曇り(有料の天気予報でも同様)だった。一方、温度が16℃程度で、強風の可能性はないことから、事前に雨天実施の予定で準備していた。前線の位置によって一瞬でも晴れ間がでることを期待して出発したが、ほどなくして小粒の雨となった。 ・予め白笹山山頂で計画の再検討を行うことにして、白笹山登頂後、再検討を行った。気温は15℃を下回ることはなく、無風に近い状態ではあったが、目的の紅葉は望めないこと、白笹山は登頂できたこと、雨の中の山行を経験できたことなどから、無理はせず下山することにした。 ・8時半頃に下山したところ、これから登山を開始するという人たちが多数いた。1年前には4名の方が低体温症で亡くなった事故があったので、ミーティングでは秋の天気、天気図について登山アドバイザーから講話をいただいた。	降雨があったのでレインウェアを着用した。その際、生徒1名が、雨具だと思って購入した上着が雨具ではなく防水できていないことがわかった。結果的には気温が15℃で、歩けば汗がでるくらいの温度だったため(低体温症のリスクは軽微だと判断し)、そのまま下山した。	レインウェアの防水機能についての説明は受けていたものの、防水しそうな見た目から「多分大丈夫だろう」と思い込んでしまった。	防水機能のあるウェアを購入する。常同者からも「レインウェアは少しお金がかかってもいいものを選んで欲しい」とアドバイスをいただいた。	問題なし